

Faculty Development FD

日本大学
FD NEWSLETTER

WINTER
2022
VOL



20



Contents

特集 日本大学におけるFD活動のミライ 2

内部質保証体制と
全学的なFD活動の連携強化が重要

連載 部科校における学習支援等の事例紹介 4
第12回 [法学部] 自主的な学習を推進するためラーニング・コモンズを設置

連載 授業改善のためのティーチングティップスの収集と情報提供
第13回 危機管理学部における成績評価の共通ルーブリック化について

COVER PHOTO

付属病院における臨床実習の様子。5年次生は、専任の指導医と共に学生デントデンティストとしてチーム医療の一員となり、充実した設備環境の中で歯科治療の見学・介助・自験を行いながら歯科医師国家試験に向けた知識、技能及び態度を修得している。(担当教員：松戸歯学部 清水武彦教授)

特集 日本大学におけるFD活動のミライ

FD 推進センターは、設置 14 年目を迎えた今年度、3 か年にわたる中期計画を進行しています。藤井孝宜FD 推進センター副センター長から現在の活動内容と中期計画について確認するとともに、各ワーキンググループリーダーと今後の展望について語り合いました。

内部質保証体制と全学的なFD活動の連携強化が重要

● 現在の活動内容と中期計画

藤井 本学の教育状況は、FD 推進センター設立当初と大きく変化しています。特に平成 29 年度以降は、学生に身に付けて欲しい 8 つの能力を示した日本大学教育憲章の下、学生の成長を一義的に捉えた教育の質保証を実質化するFD活動に力を入れてきました。

その成果と課題を総括し、6 年ぶりに本センターのミッション（資料 1）を見直しました。そのポイントは 2 つあります。まず、教員と職員の役割についてシンプルに分かりやすい表現に改めたこと。そして、「学生が参画した教育改革」は本学の“伝統”として、推進することが盛り込まれています。

令和 3～8 年度の「日本大学中期計画」と、本センターのミッションに沿って、本センターの 3 か年の中期計画を立案しました。そこには、「FD 推進センターにおけるPDCAサイクル充実を図る組織的取組みの実施」を追加。FD 推進センターにおけるPDCAサイクルにおいて、ワーキンググループリーダー会議が「対策・改善」の役割を担う（図 1）ことで、改善・改革を推進していきたいと考えています。

● FD 推進センターメンバーによる座談会

藤井 続いて、全学のFD活動を推進するワーキンググループの各リーダー

資料1 FD 推進センター

◎ FD 推進センターミッション

本センターは、本学の「目的及び使命」のさらなる推進を目指し、日本大学教育憲章を踏まえ、大学の求める教員としての資質を恒常的に高めるための組織的かつ多面的な取組を実践する。また、職員の教学管理能力を一層向上させ、職員が日本大学教育憲章に基づく教育課程の編成に参画し、教職協働による教育研究活動を実践する。さらに、学生と教職員が手を携へ、本学の教育改革を推進することをミッションとする。

◎ FD 推進センター中期計画（令和 3～5 年度）

本センターの掲げるミッションの達成を目指し、令和 3 年度から令和 5 年度までの取組を以下のとおり示す。

- 1 教員の恒常的な資質及び職員の教学管理能力の向上を目指し、日本大学教育憲章に基づく教育研究活動能力の獲得
- 2 教員の教育研究活動等の自己点検・評価の実施による資質向上の推進
- 3 FD 活動の成果とその充実を支援する情報を収集し、学内外へ効果的に発信
- 4 FD 推進センターにおけるPDCA サイクル充実を図る組織的取組みの実施

◎ ワーキンググループ中期計画（令和 3～5 年度）

調査・分析 ワーキンググループ

- ・FD 等教育開発・改善活動に関する調査の実施
- ・学生による授業評価アンケート結果の全学的な活用に係る諸検討
- ・教員の教育業績評価方法などに係る諸検討

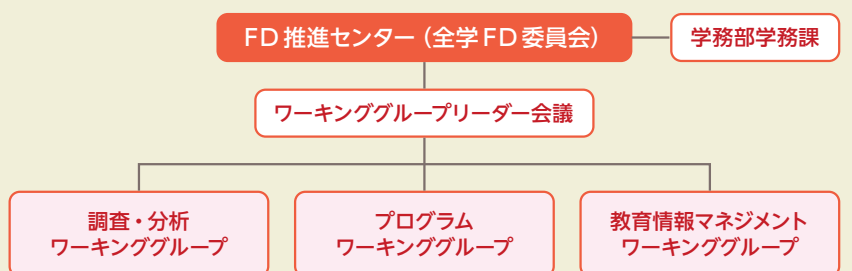
プログラム ワーキンググループ

- ・全学FD ワークショップの企画・開催
- ・新任教員を対象としたFDプログラムの検討及び企画・開催
- ・日本大学学生FD CHAmiTの企画・開催
- ・全学FD シンポジウムの企画・開催に向けた検討
- ・学部へのFD 支援

教育情報マネジメント ワーキンググループ

- ・「日本大学 FD NEWSLETTER」の作成
- ・「日本大学 FD ガイドブック」の成果の測定と改善案の検討
- ・「日本大学 FD 研究」の編集・刊行
- ・学内外の教育改善に関わる情報の収集と発信

図 1 日本大学 FD 推進センター連携マップ



から、中期計画（前ページ資料1参照）について具体的に説明をお願いいたします。

大貫 調査・分析ワーキンググループでは、継続して「教員の教育研究活動等の自己点検・評価の実施による資質向上の推進」に関する事項の検討を進めております。普段の教育研究に邁進されている先生方が、効率よく自己点検・評価に取り組めるのか検討を進めております。

平山 プログラムワーキンググループでは、ワークショップ及びシンポジウムなどの様々なFDプログラムの継続的な実施により教職員の資質能力の向上や学部のFD活動の支援を行っています。

臼井 教育情報マネジメントワーキンググループでは、引き続き、FD活動の成果と教育に関わる情報の収集と発信について力を入れております。

内部質保証への貢献を目指して

藤井 本学は令和3年3月に、「日本大学内部質保証に関する方針」を制定し、本部に「全学内部質保証推進委員会」を設置しました。また、学部等においても、「学部等内部質保証推進委員会」を設置し、質保証に関する全学レベル、学位プログラムレベル、教員レ



ベルによるPDCAサイクルを実質化させるべく動き出したところです。そこで、本センターと全学内部質保証推進委員会がどのような連携をすべきか、議論したいと考えています。

臼井 全学内部質保証推進委員会の基本的な活動は、必ずしも教学だけではなく、学部等では改善に必要なデータを収集し、課題を指摘していくことが重要です。本校内や学部等から集約した課題を全学内部質保証推進委員会が一元管理できれば、FDをはじめとして教育・研究における課題の対応も全学で検討できるのではないのでしょうか。

藤井 今後、全学と学部等において組織的にIRを推進していくでしょう。

大貫 IRのうち、教学IRに関するものがFDだと考えれば、IRをFDに活かすためには何が必要か更なる議論が必要ですね。また、教学に関するビッグデータの収集と分析も必要だと考えています。全学部データを一元管理することで高度な教学改革につながり、大規模大学である本学の強みをより発揮できると考えています。

藤井 FD活動においては、シラバスの実質化などの教員レベルの活動が重要ですが、質保証に関するPDCAサイクルを強化するためには、学修成果の可視化などミドルレベル（学位プログラムレベル）の検証も重要です。例えば社会人基礎力を測定する外部評価を活用することも一つの方法です。

他に今後センター全体で力を入れて



いくべきことはありますか。

平山 学修成果の可視化に注力するには、学系ごとそれぞれのワークショップを企画するのも一案ですね。他には、学生FD CHAmmitのように教員と学生が手を携えながら進めるFD活動を更に加速させることも重要です。例えば、学生が教職員対象の全学FDワークショップに参加することは内部質保証にもつながるはずですね。

臼井 職員や教員が積極的にリードして、キーパーソンとなる学生を巻き込み、学内で先行する事例を参考に、各学部内で組織する必要があると考えます。こうした取組を学内外に積極的に情報発信したいですね。

藤井 FD推進センター（全学FD委員会）として、自己点検・評価や認証評価の結果、特にFDに関する指摘事項について意識を向けることも必要です。それにより、FD推進センターの中期計画や活動計画の見直しも必要となるかもしれませんが、有機的な連携こそが今後の本学を支えていくでしょう。

日本大学の内部質保証に関わる内容はホームページをご覧ください



◎ FD 推進センター（全学 FD 委員会）メンバー



FD 推進センター
センター長
理工学部教授
青木義男



FD 推進センター
副センター長
生産工学部教授
藤井孝宜



調査・分析
ワーキング
グループリーダー
理工学部教授
大貫進一郎



プログラム
ワーキング
グループリーダー
松戸歯学部教授
平山聡司



教育情報
マネジメント
ワーキング
グループリーダー
法学部教授
臼井哲也

連載

部科校における学習支援等の事例紹介

第12回 [法学部] 自主的な学習を推進するためラーニング・コモンズを設置

法学部図書館7階のラーニング・コモンズ (Learning Commons) は、学生がこれまでに身に付けた知識や技能を大学でよりいっそう高め、深め、広げていく場としてオープンしました。自主学习・グループ学習などを行う場所として、また、授業・ゼミナール・セミナーなどのために活用できる場所として自由に利用できます。

ラーニング・コモンズには、自由に動かせる机・椅子・テーブルを用意し、グループでレイアウトを思いのままアレンジしてディスカッションできるコーナーを設けており、用

途に合わせて学生の皆さんは個人でもグループでも事前に予約できません。

図書館のラーニング・コモンズは、西側と東側フロアに分かれ、西側フロアではステージ、円形テーブル席の椅子・机を移動してイベント会場として利用ができます。東側フロアでは、手前にソファ・円形ソファ席、奥に個人ブースがあります。グループ学習用フロア (西側) は、グループ学習・作業用に利用できます。また、PCモニター備付のソファ席や、板書用のホワイトボードもありますのでグループワークに

最適です。映写用プロジェクターやスクリーンを用いてプレゼンテーションも可能です。

互いにコミュニケーションを図りながら、自主的に学習するための開かれた空間として大いに活用していただきたいと思います。(日本大学図書館法学部分館長 中村 進)



連載

授業改善のためのティーチングティップスの収集と情報提供

第13回 危機管理学部における成績評価の共通ルーブリック化について

危機管理学部では、日本大学教育憲章で掲げられた8つの能力に紐づきカリキュラム・ポリシーを定め、そのコンピテン스에紐づいた、共通ルーブリックを運用しています。

特に、自主創造の基礎1・2のような、複数の教員が担当する科目については、成績評価が難しいため、共通のコンテンツを作成する教員が科目と授業回のコンピテンスに基づき、授業回ごとのルーブリックを作成しています。例えば、毎回提出させる課題の採点の方法について、右

図のように例示することで、評価に対する教員による差が生じないようにしています。学生にとっても、なぜその評価がされたのか、ルーブリックと評価方法が提示されると分かるため、双方にとってコンピテンスに基づく成績評価がどのようなものか理解を促進できる点も利点だと考えています。同時に、前学期と後学期の後に教員間のミーティングを開き、評価方法、教授方法について議論も行っています。この運用が教員の学修設計に対する理解、学生の

理解につながっているのかを定量的に検証する必要がありますが、学修目的と評価の見える化は今後の教育の前提となるため、さらなるブラッシュアップを図っていく予定です。(危機管理学部教授 中村 良)

講義名	評価基準	ルーブリック			
		1	2	3	4
危機管理学部 危機管理の基礎1	課題	内容が正確で、論理的に整理されている。	内容が正確で、論理的に整理されている。	内容が正確で、論理的に整理されている。	内容が正確で、論理的に整理されている。
	授業	授業中積極的に発言し、授業内容について理解を示している。	授業中積極的に発言し、授業内容について理解を示している。	授業中積極的に発言し、授業内容について理解を示している。	授業中積極的に発言し、授業内容について理解を示している。
	レポート	レポートが授業内容に基づき、論理的に整理されている。	レポートが授業内容に基づき、論理的に整理されている。	レポートが授業内容に基づき、論理的に整理されている。	レポートが授業内容に基づき、論理的に整理されている。

※本ニューズレターに記載した資格・学年等は、令和3(2021)年12月現在のものです。

日本大学 FD NEWSLETTER 第20号

発行日: 令和4(2022)年2月1日(年2回発行)
 発行所: 日本大学FD推進センター センター長 青木義男
 〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315
 e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp https://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/
 所管部署: 日本大学 本部 学務部学務課 企画・編集: 日本大学全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

[日本大学 FD NEWSLETTER]に関する御意見や御感想などがありましたら、学務部学務課 (adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp)へお寄せください。
 本ニューズレターに掲載した文章、写真等の無断転載・複製を禁じます。 Copyright(C)Nihon University 2022 All Rights Reserved.

